

中学校第 1 学年 英語科 学習指導案

期 日 平成23年10月17日(月)第5校時

場 所 菊池市立泗水中学校 1 - 3 教室

指導者 T1教諭 田崎明美 T2教諭 岩田亜紀
ALT Jatin Patel

1 単元名 Program 6 シアトルでの1日 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

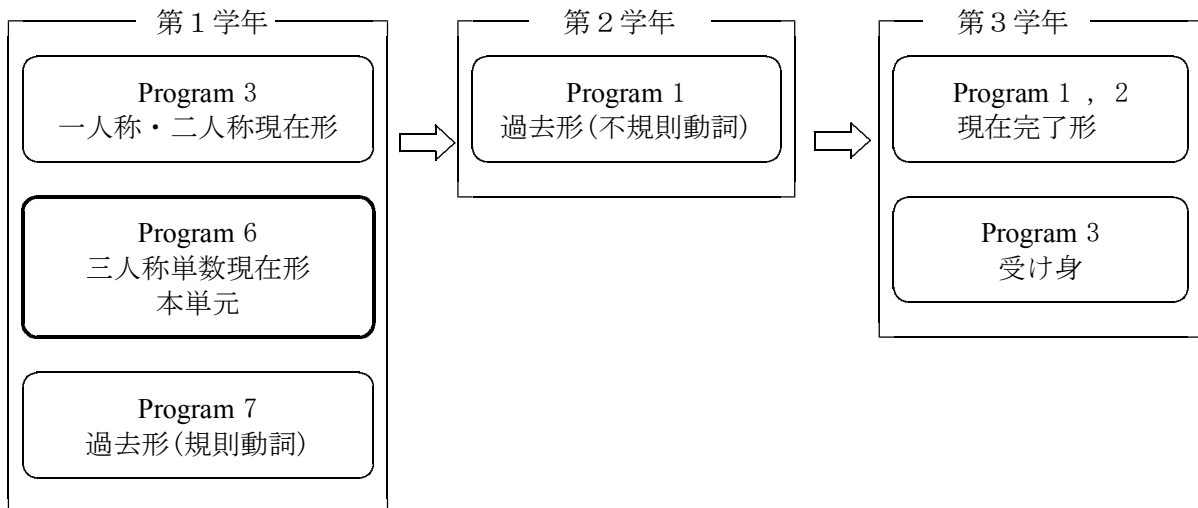
2 単元について

(1) 単元観

本単元は、由紀の海外旅行体験記である。シアトルの市内観光を通じて、アメリカの文化の一端に触れることをねらいとしている。由紀達が様々な場所を訪問することを通して、アメリカ旅行の雰囲気を味わわせると共に、アメリカの生活や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育成したい。また、海外旅行の場面ではその国の言葉話す必要性が高まるので、観光やショッピング、人との出会いの場における自己紹介の場面など、生徒が目的を持ってコミュニケーション活動に取り組む場面が設定しやすい題材である。

また、言語材料としては一般動詞の三人称単数現在形を肯定文、否定文、疑問文で使えるようにすることと、時を尋ねる **when** を使用できるようにすることをねらいとしている。三人称単数現在形を用いることによって、第三者のことについての事実や聞いたことを述べる表現が可能となり、四技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することに適している。

(2) 系統観



(3) 生徒観

○英語学習に対する意識調査の結果

調査日：6月30日 調査対象：64人 単位：%

ア、あてはまる イ、まあまああてはまる ウ、あまりあてはまらない エ、あてはまらない

アンケート項目 (一部抜粋)	ア	イ	ウ	エ
1 英語は好きな教科である。	38.2	35.3	26.5	0
2 英語を話すことは好きである。	23.5	26.5	44.1	5.9
3 英語で自分のことを話すのは楽しい。	6.3	56.2	34.4	3.1
4 英語で話す時、何を質問すればよいか分かる。	3.1	50.0	43.8	3.1

6月に実施した意識調査によると、多くの生徒が英語学習に対して好意的である。「英語で話すこと」に対しては半数の生徒が好意的であるのに対して、「英語で自分のことを話すこと」に対して好意的な生徒は約63%であり、「英語を話すこと」と比較して高くなっている。自分自身のことなど、発言内容を自分で選択することができ、内容がはっきり分かるときは話しやすい一方で、相手の質問に的確に答えたり質問を返したりするような対話には自信がない生徒が多いと考えられる。さらに、「英語で話すとき、何を質問すれば良いか分からない」と答えた生徒が、「あまり分からない」と答えた生徒とあわせて約半数に上り、コミュニケーションを深めるための手段の一つである「質

問する力」に課題があることが分かる。

○本単元を学習するにあたってのレディネステストの結果

自己紹介 (Hello, my name is I'm from I'm a fan. Nice to meet you.)				
記述正答率	全文正解：38%	1カ所ミス：33%	2カ所ミス：11%	3カ所以上ミス：8%
口頭正答率	全文正解：85%	1カ所ミス：10%	2カ所ミス：3%	3カ所以上ミス：2%
他者紹介 (This is my friend He/She is from He/She is a fan. Thank you.)				
記述正答率	全文正解：45%	1カ所ミス：30%	2カ所ミス：8%	3カ所以上ミス：7%
口頭正答率	全文正解：90%	1カ所ミス：5%	2カ所ミス：3%	3カ所以上ミス：2%

口頭での正答率が高い一方で、記述の正答率が低くなっている。誤答のほとんどがスペリングのミスであった。

(4) 指導観

○トレーニングタイムとして授業のはじめに教科書の音読を毎時間実施し、英語の音だけでなく、英語の語順にも慣れ親しませる。その際、苦手意識を持つ生徒に対しては、側に立って一緒に音読するなど、個別の支援をする。

○間違いを恐れず、積極的に英語を使う姿勢を大切にする。

○授業の中での対話量を十分確保するために、ペアワークやグループワーク等の学習形態を工夫する。

○生徒が授業で学んだことを、日本語でのコミュニケーションにも役立てていけるような指導を行いたい。そのために、英語の対話モデルだけでなく日本語での対話モデルも提示し、英語でも日本語でも、一方的な語りかけや一問一答のやり取りでは、コミュニケーションは深まらないことに気付かせるようにしたい。

○まとめとして文章を書かせる際は、音と綴りととの一体化を図りながら個別指導を徹底する。

Aプロジェクト 思考力、判断力、表現力等の育成の視点から	
クラスメートの自己紹介のスピーチを聞き、さらに情報を獲得するための質問等をすることで英語による対話を進め、そのクラスメートを他の友達に紹介する本活動は、生徒が英語で表現するまでに、様々な思考・判断の段階が要求される。「聞くこと」と「話すこと」との技能を統合的に活用する言語活動を通して、思考力、判断力、表現力等を高めるとともに、一方的な発信にとどまらず、受け取って内容をふくらませ、相手に話の主体を移す「コミュニケーション能力」の基礎を養いたい。	

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	○一般動詞の三人称単数現在形及び疑問詞 when を用いた文の意味・構造を理解する。 ○間違えることを恐れず積極的に話す。 ○クラスメートを他の友人に紹介する。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	①間違えることを恐れず自分や人（友達）の紹介をしたり、聞いたりしている。
外国語表現の能力	①語句や表現、文法事項などの知識を活用して、正しく書くことができる。
外国語理解の能力	①語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。
言語や文化についての知識・理解	①一般動詞の三人称単数現在形を用いた文の意味・構造を理解している。 ②疑問詞 when を用いた文の意味・構造を理解している。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時 2／8）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準（評価方法）
1	1	Program 6-1 ○三人称単数現在形の肯定文と否定文を理解し、適切に話したり書いたりする。	・ 三人称の人物について一般動詞で表現する際に、s がついたり、doesn't で否定したりすることに、まず音声から気付かせる。	知識・理解① （ワークシート） 三人称単数現在形の文を肯定文と否定文で使うことができる。
	2 (本時)	Program 6-1 ○他者紹介に取り組む。	・ 紹介文を書くための情報を得るため、質問文やつなぎ言葉を使ってできるだけ英語で会話を続けさせる。 ・ 口頭での他者紹介では間違いを恐れず表現させる。	関心・意欲・態度① （観察） 文型カードを参考にして、自分のパートナーを別の友達に紹介している。
	3	Program 6-1 ○本文の内容理解 ○他者紹介文を書く。	・ 読み取りのポイントを示して、本文を読み取らせる。 ・ 他者紹介の文を、三人称単数現在形の形を意識して書かせる。	理解の能力① （ワークシート） シアトルの有名な観光地や、その場にはいないトムの好きなことなどについて読み取ることができる。 表現の能力① （ワークシート） 文型カードを参考にして、適切に友達を紹介する文章を書くことができる。
2	4	Program 6-2 ○三人称単数現在形の疑問文とその答え方を理解し、適切に話したり書いたりする。	・ 三人称単数現在形の疑問文は Does で始まり、Yes, she does. などでは応答することを、まず音声から繰り返し聞き取り、口頭での反復練習を徹底する。	知識・理解① （ワークシート） 三人称単数現在形の疑問文と答えを使用することができる。 関心・意欲・態度① （観察） 文型カードを参考にして、友達との対話に取り組んでいる。
	5	Program 6-2 ○本文の内容理解	・ 読み取りのポイントを示して、本文を読み取らせる。	理解の能力① （ワークシート） その場にはいない兄弟や家族の好きなものについて読み取ることができる。
3	6	Program 6-3 ○ when を使った疑問文の表現を理解し、適切に話したり書いたりする。	・ クラスの中で一番早生まれの人を探す等の言語活動を通して、When を使った文を繰り返し練習をさせる。	知識・理解② （ワークシート） When を用いて、相手の誕生日などを尋ねることができる。
	7	Program 6-3 ○本文の内容理解	・ 読み取りのポイントを示して、本文を読み取らせる。	理解の能力① （ワークシート） シアトルの観光スポットである海の様子を読み取ることができる。
4	8	Program 6のまとめ ○文法のまとめ ○ Let's Practice ○ Let's Communicate ③	・ Program 6 の文法事項のまとめを、教科書の問題を通して復習させる。 ・ ワークを活用して、文法事項のまとめをさせる。	知識・理解①② （ワークシート） 三人称単数現在形の肯定文、否定文、疑問文の構造を理解することができる。 疑問詞 when を用いた文の構造を理解することができる。

5 本時の学習

(1) 目標

三人称単数現在形の文を使って、自分のパートナーを別の友達に紹介することができる。

(2) 評価基準

「関心・意欲・態度」

(基準 B) 文型カードを参考にして、自分のパートナーを別の友達に紹介しようとしている。

(基準 A) 意欲的に自分のパートナーを別の友達に紹介しようとしている。

(3) 展開

過程	学習活動 【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Aプロジェクトの視点	備考
導入 10分	1 Greetings 2 Training Time (1) 教科書音読【4人班】 (2) Q&A 【ペア】	○自分の役割を読もう。 ○答えにもう一文付け加えて答えよう。	○苦手な生徒には、班で教えあわせたり、個別に支援したりする。 ※プラスワンを意識した言語活動	C M u p カード
展開 15分	3 チャット活動 お互いをもっとよく知るために、英語で対話を続けよう！			
5分	(1) ペアで自己紹介をし、その内容に沿って、さらに質問したり、答えに一文加えたりして、英語だけで対話をする。【ペア】 4 他者紹介 (1) ALT の先生の自己紹介を聞く。 岩田先生の紹介を聞く。 【一斉】	○新しく隣の席になった人に自己紹介をしよう。 ○もっと詳しく知るために、隣の人に色々質問してみよう。 ○答えにもう一文付け加えて、対話を楽しもう。 ○パテル先生の自己紹介とはどこが違うかを考えながら、岩田先生の紹介を聞きましょう。	○いつも対話をしているメンバーにならないようにして、対話をさせる。 ※プラスワンを意識した言語活動 ○C M u p カードを参考に、答えに一文付け加える等、一問一答にならないようにさせる。 ○ALT の他者紹介から、三人称単数現在形の s(-es) を聞き取らせる。 ○前時の学習内容を思い出させるため、三人称単数現在形の s(-es) の補足説明をする。	C M u p カード ワーク シート ワーク シート
5分	(2) 自分のパートナーを、班内の他の友達に紹介する。 【4人班】	○自分のパートナーを紹介する文を考えてみよう。 ○班の中で自分のパートナーを紹介しよう。	○チャット活動で得た情報メモを基に、他者紹介をさせる。 【評価：関心・意欲・態度（観察）】 〈B基準に達しない児童への手立て〉 メモを参考に、日本語を交えながらも、英語で相手に聞き取った内容を伝えさせる。	ワーク シート
10分	(3) 自分の班以外の人に、パートナーの紹介をする。 【一斉】	○できるだけたくさんの人に、自分のパートナーを紹介しましょう。		
整理 5分	5 まとめ 本時の感想や自己評価を評価表に記入する。	○今日の授業を振り返ろう。	○取組をしっかりほめる。	評価 カード